

2017 チャイルドライン 年次報告 発行

活動から見える子どもたちの状況や、2016年度の活動状況をまとめた「2017チャイルドライン年次報告」が完成しました。配布をご希望の方は事務局までご連絡下さい。
【競輪の補助を受けて実施しました】



電話件数

NTT コミュニケーションズ
トラヒック調査ツールより



2017年3月～8月		前年同期比 16年3月～8月	前期比 16年9月～17年2月
発信数	246,159件	-50,873件	-28,517件
着信数	105,060件	-5,813件	6,593件
着信率	42.7%	5.4%	6.8%
平均通話	4分58秒	-11秒	-4秒
総通話時間	8,688時間	-829時間	437時間

ご支援・ご協力 ありがとうございます

子ども専用のフリーダイヤルをはじめ、チャイルドライン支援センターの活動は、多くの方からのご支援によって成り立っています。ご寄付をいただいたみなさまに、この場を借りて御礼申し上げます。

●2017年3月～8月のご寄付総額 2,782,818円

また今後も、フリーダイヤル等の活動継続のため、年間2,000万円のご寄付が必要です。支援会員（個人年会費10,000円／団体年会費50,000円）を随時募集しています。何卒ご支援くださいますようお願いいたします。

※当団体は国税庁の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の優遇を受けることができます。

ウェブサイト新コーナー OPEN

「子どもが今感じている自分の気持ちを表現する言葉を見つける」をコンセプトとして制作した新コーナー「いまのキモチ」がOPENしました。電話やチャット相談の利用者の子どもたちが待ち時間の間にも利用してもらえたらと考えています。

熊本を訪問しました 8月28日から30日まで

・九州エリア会議開催
熊本災害支援支援の振り返りおよび今後の九州における連携について



・KVOAD（NPO法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク）の会議に参加し、熊本の現在の支援・ボランティアの状況をおたずねしました。
・仮設住宅を訪問。（御船地区、高木地区、益城地区）



編集後記

今年もお茶の水女子大学の学生インターンが事務局に実習に来ています。また日本女子大学の授業「NPOとNGO」や新宿区のボランティアサロンにスタッフが参加し、NPO職員としての経験などをお話ししました。NPO活動に関心のある方が増え、様々な現場で力を発揮していただけたらと願っています。

特定非営利活動法人（認定NPO）

チャイルドライン
支援センター

ニュースレター

News Letter

vol.
135



巻頭言

「学校がどうしてもつらかったら休むことも必要だよ」 「学校以外での学びの機会も保障されているよ」

～フリースクールの現場から～

フリースクールをご存知でしょうか？

フリースクールとは「学校制度以外の子ども・若者の居場所、学び・育ちの場」です。30年程前に登校拒否・不登校の親の会が、子どもたちの居場所を作ろうとしたのが始まりです。

現在も学校が合わなかったり、いじめ被害、教師からの体罰、人間関係や学力競争などに疲れ果て不登校や高校中退した子どもたちが通ってきています。



私のフリースクールが加盟しているNPO法人フリースクール全国ネットワークでは、子どもの主体性・自己決定・興味・関心を尊重しながら子どもが参画してつくる学び・育ちの場であることを大切にしています。活動内容は、教科学習やスポーツ、野外活動、楽器演奏、農作業、料理、ボランティア活動、仕事体験、演劇、映像制作、ゲーム、高校卒業認定試験や通信制高校の学習サポートなど様々です。このような活動を通して、子どもたちは元気と自信を取り戻し成長しています。スタッフは、日々の子どもたちとの活動の中で学び気づいた「子どもたちが自分らしく成長できる社会のあり方について」を社会に発信していく役割も担っています。

NPO法人フリースクール全国ネットワークでは、長期休暇明け、特に夏休み明けに子どもの自殺が多いことに対し、昨年に引き続き加盟団体による「駆け込み居場所」の開設や子どもたちへのメッセージ配信を行いました。また、今年は厚生労働省の補助事業として全国10ヶ所で子どもの自己肯定感向上などを目的にした講演会キャ

ラバンも開催しています。

このキャラバンでは、昨年末に成立した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の周知も併せて行っています。この法律には「学校がどうしてもつらかったら休むことも必要だよ」、「学校以外での学びの機会も保障されているよ」ということが定められており、まさに学校が要因となる子どもの自殺を防止する活動の後ろ盾となるもので、保護者にも子どもたちにも周知することで子どもの自殺を大きく抑止することができると思っています。

チャイルドラインは匿名だからこそ何でも話せて、子どもの心に寄り添うことで子どもの不安を軽く子どものエンパワメントを支援する心の居場所。フリースクールは顔も名前も知っているけど、何も言わなくてもそこに居ていいという安心感が（もちろん話したい子は何でも話してもいいという安心感も含め）子どものエンパワメントを支援する子どもの居場所。それぞれアプローチ方法は違うけれども、子どもが安心できる居場所として、今後とも様々な協力ができたらいいと思います。

今年も、ひとりでも多くの子どもの命を守るためにフリースクールでも様々な活動に取り組んでいきます。



チャイルドライン支援センター理事
NPO法人フリースクール全国ネットワーク理事 中村 尊



発行日：2017年9月20日

発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）

〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 曙橋コーポ2階 TEL：03-5312-1886 FAX：03-5312-1887

URL：http://www.childline.or.jp/ E-mail：info@childline.or.jp



2学期に増加する「いじめ」 —多角的な視点でできることを

NPO法人ストップいじめ！ナビ副代表
須永 祐慈



「いじめ」に関する話題は、少なくとも35年以上、尽きることはありません。1980年頃からいじめが社会問題となって以降、いじめによる「自殺に関する報道」も度々大きく取り上げられ、その度に議論を呼び、さまざまな対策がとられてきました。

しかし、なぜでしょう。35年以上にも渡る議論があり、様々な対策がとられてきたのに「いじめ」はおさまることなくなぜ続いているのでしょうか。

この問いに対しては、「先生や学校が悪い」「教育委員会が問題だ」「いや、これまで真剣に取り組んでこなかった国の責任」「いや、学校は運だから仕方がない…」など、多くの意見があります。誰もがいじめを身近な問題として感じてきたからこそなのだと思います。一方で、「いじめは子育ての問題」や「学校が全責任を持つべき」「なによりいじめられる本人に原因があるからだ」など、時折、問題を個人の責任にする声や、一過性の解決策、感情論に終始するなど、いじめの議論が前進していない部分があるようにも、私には感じられます。

子どもに目を向けると、チャイルドラインによる統計では「深刻な悩み」の主訴のなかで「いじめ」の件数がダントツで多い状況が続いており、日常的な悩みの一つとなっています。また、私がラジオ番組等に出演した際に寄せられた子どもの声からは「どうせいじめはなくなるよ」とか「嫌でも逆らえない」という声も多くありました。半永久的に発生し続けるのがいじめだから仕方がないよ、といった、諦めや落胆に近い、悲痛な声も聞こえてきます。しかしそれでは子どもたちは苦しみ続けるばかりです。

では、どうすればいいのか。私は2012年10月に「ストップいじめ！ナビ」というNPOを立ち上げ、弁護士や自殺対策・ジャーナリスト、LGBT当事者、不登校経験者、IT企業など有志が集まり活動する中で、考えつづけてきました。

活動をしつつ見えてきたのは、これまでいじめに関する研究は積み上げられたものがあり、その蓄積の中に「いじめから脱出するためのヒント」もあるということ。し

かし、それがまだあまり共有されていない現状でもあることもわかってきました。

一つ例としては「いじめには『起こりやすい時期』」があります。いくつかの統計を見てみると、特に春の5・6月、秋は9月～11月にいじめのピークが訪れます。この手前の時期に子どもへの目配りや、丁寧に耳を傾け寄り添うなどをすることが、深刻化を防ぐ手立てになるかもしれません。

時期だけではありません、日本のいじめは「暴力」のいじめが少ない一方で「無視・悪口・からかい」などの「言葉や空気をコントロール」することの方が多い国際調査結果もあります。以前から「いじめ四層構造」をベースに議論も進んでおり、加害者と被害者だけではなくいじめに加担する「観衆」や距離を置く「傍観者」がいて、観衆や傍観者が止めなければ「いじめを深刻化」させてしまうことにもなります。またそもそもいじめを止める「クラスの空気」の縛りもあります。

となると、暴力よりも言葉のトラブルなどから早めに対応していく必要がありますし、被害者加害者だけでなく、周りがどう動くか、また気付いた時にアクションしやすくクラスの空気を変える方法などが課題にもなってきます。いじめは絶対ダメ、と教えるよりも、「いじめが起きにくい空気・環境づくり」、つまりいじめをどう予防するかが、今後の議論のポイントになってくるのです。

できることは実は、本当にいろいろあります。個々の問題の指摘だけではなく、いじめが起こる環境に目を向けること、具体的な対応策を考えること、動いた後の効果検証なども重要です。そして各立場がどう動くのかも大変重要です。その一つの役割に「チャイルドライン」のような安心できる第三者のつながりも大事になってくるのだと思います。

とはいえ、対策には時間がかり複雑で簡単なことではありません。いじめは無くせないかもしれませんが、まだまだ少なくすることはできる。その姿勢で子どもたちに寄り添う気持ちを損なうことなく、多角的な視点で問題を整理し、動く必要を感じています。

チャイルドライン
支援センター

活動報告
2017.4～2017.8

文部科学省 SNSを活用したいじめ等に関する 相談体制の構築に係る ワーキンググループに参加しました

(第1回7月13日、第2回7月26日、第3回7月31日)

神代表と高橋プログラムマネージャーによる
「チャイルドラインにおけるオンラインチャット相談試
行についての報告」



事前に神代表から「子どもの長期休暇明け前後に児童生徒が亡くなるケースが毎年急増する傾向」を受け夏休み明け前後に悩みを抱えている児童生徒をターゲットとしたキャンペーンを行うことを提案しており、関係事業者によるキャンペーンの取り組みがされることになりました。

空白島のこどもたちへの広報

チャイルドラインがない地域の子どものにも電話番号などを知らせるため、広報活動に取り組んでいます。夏休み明けのタイミングに合わせ、兵庫県/香川県/佐賀県/沖縄県の学校に計120万枚のカードを届けています。

(8月8日に三和グループ社会貢献倶楽部の皆様、8月21日から4日間東京海上ビジネスサポートの皆様のご協力をいただき、計26万枚のカードを発送しました。)

8月28日熊本県教育委員会、8月29日熊本市教育委員会を訪問し、カード配布のご協力をお願いしました。

【子どもの未来応援基金の助成を受けて実施しました】

オンライン相談事業説明会

オンライン相談試行の体制拡大のため、チャイルドライン実施団体関係者を対象とした事業説明会を5月13日(土)に開催しました。11月以降には東京以外の地域での試行にも取り組む予定です。

オンライン相談 試行

5回目となるチャット相談のトライアルをGW明けの5月8日から14日まで実施しました。

利用した子どもからは、期間を延ばしてほしいという声も届いており、継続的に実施することの必要性が感じられます。

実施回	訪問人数	会話成立	平均通話
第5回	1,313人	117件	42分
1回～5回 累計	7,482人	597件	41分

8月29日から9月6日にかけても夏休み明け周辺の子どもの不安や辛い気持ちを受けとめるため9日間の連続実施キャンペーンを実施しました。今後は定期的な体制の試行に取り組みます。

(毎月第2、4木曜・第1、3金曜 16時～21時)

【競輪の補助を受けて実施しています】

総会報告、事業計画

6月3日に通常総会を開催し、2017年度の事業計画が決定しました。今年度はガイドラインの刷新やオンライン相談試行の体制拡大などに取り組んでいきます。

〈2017年度事業計画概要〉

1. チャイルドライン事業
 - 統一番号フリーダイヤルの実施 (通年)
 - エリア会議、全国運営者会議、自死予防研修会の実施
 - オンライン相談 研修/試行
 - アウトリーチプログラム
 - ガイドライン策定
2. アドヴォカシー (社会発信) 事業
 - 子ども向け広報
 - 大人への啓発パンフレットの作成
 - 子どもの貧困に関する調査分析
 - 被災地支援 など

新ガイドライン策定

チャイルドライン全体の統一性を保ち、共通認識のもとに対応の質をさらに高めていくため、ガイドラインの刷新に取り組んでいます。全国各地のチャイルドラインからメンバーが参加するプロジェクトチームにより具体的な検討を進めています。

(第1回:6月4日、第2回:7月1日、第3回:8月27日)

【競輪の補助を受けて実施しています】